



Polyamorous Gay Relationship and Surrogacy.

ゲイのポリアモリー関係と代理出産

Interviewee

Dr. Ian Jenkins

Q. 自己紹介をお願いします。

父親であり、病院の医師であり、米国カリフォルニア州の地元医科大学の教授でもある。現在 48 歳になる。執筆と活動、そして医学と医学教育の発展に関心を持っている。

長年のパートナーであるアラン（45 歳）と出会ったのは 21 年前のこと。自分はアランの指導医だった。自分はアランがゲイであることがすぐにわかったが、アランは、最初は気づかなかったようだ。二人が付き合い始めたのは、アランがローテーション医を終えたときだった。当時二人はボストンに住んでいたが、後にカリフォルニアに引っ越した。

3 人目のパートナー、ジェレミー（41）と出会ったのは 12 年前。オンラインでマッチングし、会話を始めた。最初から、アランとの交際に加わる 3 人目のパートナーを探しているという事実をオープンにしていた。ジェレミーは、最初は渋っていたが、2 人でランチをすることに同意した。二人は意気投合し、それ以来ずっと一緒に暮らしている。ふたりは一緒に暮らし、代理出産で生まれた 6 歳と 4 歳の子供を育てている。

Q. いつからポリアモリーを実践していますか。日本でもごく最近、この言葉を聞くようになり

ました。昔から、一夫多妻や一妻多夫は一部の階層や地域では存在していましたが、これらと、同じでしょうか、それとも、違うのでしょうか？

ずっとポリアモリーを実践してきたわけではなく、若い頃はそれが何なのかさえ知らなかった。パートナーが他の誰かと会いたがったら、それは不快なことであり、そうなれば関係が終わるのは避けられないことだと信じて育った。

初めてゲイの関係をを持ったのは大学時代で、その関係は、6 年間続いた。当時のボーイフレンドは、女性とも付き合いたいと言い始め、そのため、彼がそうするためには 2 人の関係を終わらせなければならぬと感じた。自分は、彼に罪悪感を抱かせないように、その移行を手助けした。この経験から、自分はパートナーが他の誰かと会っても気にしないことに気づき、「相手が他の誰かに何を与えるかは気にしない」この考え方を取り入れてから、誰かにとって唯一のパートナーでないことに嫉妬することはなくなった。

自分たちは結婚していない。同性婚が不可能な時代に育ち、今後も可能になるとは思っていなかった。結婚とは主に宗教的なプロセスだと考えていたし、同性愛に対する教会の否定的な見方を考慮すると、結婚に対して良いイメージを持っていなかった。最近では、相続権などに関する現実的な面から考えることが多くなった。自分たちの場合、誰かが死んでも財産が信託に移され、争いが起きないように遺言と信託を設定している。

イアン、アラン、ジェレミーには、交際に関する「同意書」や「契約書」はない。子供を授かったとき、体外受精の医師は育児同意書を要求した。これには不満を感じた。ほとんどの人は子供を持つために署名などする必要はないからだ。私たちはそれ



ぞれ弁護士を雇い、この契約書を作成しなければならなかった。

Q. ポリアモリーの関係性では、誰かが主導権やパワー（経済力、権威、性的魅力など）を持っていることが多いでしょうか？

自分たちの場合、確かに「責任者」はいない。もともと、ポリアモリーのアイデアを持っているのは自分だった。その点で、自分は2人の「橋渡し役」だといえる。家族の決定や子育てに関しては、すべて平等だ。もちろん、それぞれに異なる人間であり、関係に異なる強みをもたらしている。例えば、自分は、家ではちゃんと料理をするだけでなく、多くのお金を稼ぐために外で人より多くの仕事をする。アランは子供たちの服や掃除用具を買い、ジェレミーは子供たちの課外活動を企画する。洗濯は全員が交代で行う。

Q. ポリアモリーは制度化されるべきでしょうか？ 権利擁護団体はありますか？

このことにはっきりとした考えをもっていない。ポリアモラスなカップルの結婚はアメリカでは絶対に合法化されないと考えていて、それには根拠がある。もし認められたら、たちまち過激な宗教団体（若い女性を支配しコントロールするモルモン教原理主義者など）に取り込まれてしまうからだ。潜在的なデメリットに強く反対していて、自分たちが結婚する可能性を求める以上に、それを避けたいと考えている。そのためにはあらゆる種類の新しい法律が必要になる。別離や財産分与は非常に複雑になるだろう。

Q. 卵子と精子で生殖できる男女カップルの場合と比べて、ゲイのポリアモリー関係で生殖を行い、子育てをする場合、どんな違いがありますか？ どのような心構えが必要でしょうか？

どんな家族にも共通点と相違点があり、自分の家族はそれほど珍しいものではないと信じている。自分の家庭は、ほとんどの家庭と同じように機能している。

ゲイのポリアモリーのカップルが子育てをする場合、大きな違いがいくつかある：

- 代理出産で生まれる子どもはすべて、親が意図して、親から深く望まれて誕生している。このような方法で家族を作るのは非常に困難なプロセスであり、偶然の産物ではないということ。
- 体外受精や代理出産による家族形成は、そのプロセスを通じて常に誰か（医師など）と協力しなければならない。
- 代理出産の場合、家族形成にはとてもなお金がかかり、子供1人につき10万ドル以上かかる。医師2名を含めて3人分の収入があるのはラッキーだった。
- 伝統的な性別役割分担に伴う制限や分裂を経験しないことはプラスだ。家の中に男女両方がいることの利点も確かにあるが（あらゆる多様性と同じように）、必要なら色々と手助けしてくれる親切な女性は周りにたくさんいる。

Q. 代理出産のプロセスについて詳しく教えてください。



代理出産は複雑なプロセスだった。詳しくは著書(Three Dads and a Baby)で述べているが、概要は以下の通り：

- 自分たちは、あるレズビアンのカップルの友人だった。このカップルは自分とパートナーに受精卵を提供してくれた。自分は、オープンアダプションのような取り決めをするのは素晴らしいアイデアだと思った。残念ながら、その受精卵は着床しなかったが、代理母は再挑戦を勧めた。
- その後、アランの女友達の一人(ミーガン)が卵子を提供し、2つの受精卵を作ることができた(3人とも精子を提供したため、父親が誰になるかはわからなかった)。
- 最初の代理母が妊娠し、娘のPiperを身ごもった。
- 2人目の代理母が妊娠し、息子のParkerを身ごもる。2人目の代理出産は、エージェントを通して紹介、自宅から15-20分の距離に住んでいた。

Pipert が生まれた時、代理母が高齢であり、さまざまな合併症を経験していたため、高いリスク因子があった。また、出生証明書に3人の父親の名前を記載できるようにするため、出産前に法廷闘争があった。

卵子ドナー(「ママ・ミーガン」)は親しい友人で、現在はテネシー州に住んでいる。自分たちは、彼女の人生に密接に関わり続け、彼女が最初の家を購入するのを手伝った。以前は定期的に代理母に会っていたが、パンデミックの影響を受けた。良好な関係を保っているが、会う頻度は前よりも減っている。

Q. 代理出産で困難だったこと、大変だったことについて教えてください。逆に、嬉しかった

こと、感動的だったことについても教えてください。

Piper が誕生した時の課題

1. ハイリスク妊娠： サロゲートは定期的な超音波検査を必要とし、胎盤からの出血と臍からの出血を経験した。
2. 出産時の合併症： Piper はへその緒が首に巻きついたまま生まれ、その後呼吸困難に陥った。翌日には元気になった。
3. 法廷闘争： イアン、アラン、ジェレミーの3人は、Piperの出生証明書に親となることを望んだ。当初、裁判所は同性愛者に友好的であり、自分たちの要求は通るだろうと言われた。しかし、下級審の裁判官は前例を作ることに抵抗があり、自分たちのケースでそれを認めることは自分の権限を超えていると考えた。ありがたいことに、控訴の結果、承認された。

ポジティブな点

- 最初の代理母は、ものすごく寛大な人だった。彼女は親になることを望んで、大きなリスクを冒してまで妊娠してくれた。
- どちらの代理母も素晴らしく、妊娠中も子供たちの面倒をよく見てくれた。

Q. 代理出産の費用は誰が出しましたか？

イアン、アラン、ジェレミーは家計を共にしており、共同口座を使っている。自分たちは、別々の口座を持っているが、小切手は共同口座から振り込んでいる。代理出産の費用もこの方法で支払った。



Q. 子育てはどのように分担していますか？誰かが子育てに専念していますか？どのように分担するかで葛藤が生じることがありますか？このことについて既存のモデルがないことをどう感じていますか？

子育ての分担に関して対立はない。あることに関しては意見の相違があるが、それは普通のこと。例えば、イアンはアメリカンドック(ソーセージ)は不健康で良くないと考えているので、子供たちには決して買ってあげないだろう。しかし、全体としては同じ意見だ。

それぞれの親は、子供と一緒に集中してやりたいことが違う。自分の場合、子供と一緒に料理をしたり、絵本を読んだりするのが好きだ。

Q. 3人のうち、誰が一番親になりたかったのですか？遺伝的親になることは重要ですか？誰が遺伝的親になるかについて、話し合いややりとりはスムーズでしたか？

3人とも、遺伝的な親になりたがっていたが、アランとジェレミーにとって、それはより重要なことだったのかもしれない。自分は子供たちと遺伝的な関係を持つことにそれほど関心がなかった。最終的に3人目は作らないことに決めたので、全員が直接遺伝的なつながりを持ったわけではない。ジェレミーは子供たちが別の母親を持つことに大反対だった。

特にジェレミーは、親になることを強く望んでいた。彼は伝統的な保守的な宗教の伝統の中で育ち、ゲイであるにもかかわらず、伝統的な家族に憧れていた。彼にとって重要な関心事は、「3人でどうやって子供を作ればいいのか」ということだった。イアンも子供というアイデアは好きだったが、若い赤ちゃんにはあまり乗り気ではな

かった。彼にとって3~4歳以上の子供が望ましいことだった。

アランは、もし子供を持つとしたら、何かを犠牲にしなければならないかを心配していた。もし子供がいたら、常に義務を負わなければならないし、休暇などに飛び出すこともできない。そのためには多くの仕事が必要だ。自分とアランは決めかねていたが、最終的にはジェレミーが背中を押した。

Q. 現在カリフォルニアにお住まいですが、マイクロアグレッションに遭遇したことがありますか？どのような？もし、他の地域に住むとしたら、何か懸念はありますか？

聞いて驚くことかもしれないが、今までマイクロ・アグレッションを受けたことがない。自分は同性愛嫌悪の多い地域で育ち、ヘイトメールや脅迫を受けたり、一度襲われたこともあったが、カリフォルニアではまったく違う。職場では他の職業人に囲まれ、学校ではオープンマインドな郊外の人々に囲まれている。幼稚園もとてもオープンだった。周りの人たちは自分たちの状況に無関心か、好奇心旺盛だった。

Q. 子供が幼稚園や小学校に通うようになった時、どんなことが起こる可能性があるか、家族で話し合ったり、シュミレーションはしていますか？

子供を持つことを決める前に、上品な地域に家を買った。幸い、近くの学校は素晴らしく、子供たちは2人ともそこに通っている。カリフォルニアでは、とても快適に過ごしている。ボストンからカリフォルニアへの移住を選んだのは、特にカリフォルニアが先進的だからだ。

Q. 父親が3人いるということを地域社会に対してカミングアウトすることになりますか？ 子供には、母親はいないと教えますか？

子供たちには常に真実を話すつもりだった。子供たちに自分たちの状況をオープンにすれば、子供たちはそれで問題ないと思う。子供たちは、ダディから少し取ってきて、マンマ・メーガン（卵子提供者）を少し加えたことなどを知っている。家族にはいろいろな形や大きさがある。

Piper は少しずつ違いを意識し始め、他の子より目立つことに敏感になっている。

Q. 代理母に愛着が生じることについて懸念がありましたか？

自分と子供たちの面倒をよく見てくれる、気の合う代理母を選んだ。嫉妬は問題ではなかった。一人目の代理母は、自分が出産後に子供に対して責任を負わないという100%の確信が必要だとはっきり言っていた。この取り決めは、すべての当事者が自分の役割を理解できるように、明確に定義されていた。代理母は、子育ての役割を取ろうとすることは決してなかった。

妊娠が家の外で行われるのは妙なことだったが、その違いがわからないので、問題はなかった。

私たちは、2人の卵子ドナー、2人の代理母、そして1年分の母乳を提供してくれた1人の看護師など、自分たちの家族作りを助けてくれた女性たちにとっても感謝している。

Q. カリフォルニアの法律で、3人親として登録することは困難でしたか？ それはどうにして可能になりましたか？（日本では全く考えられないこと）

カリフォルニアにはいろいろな家族がいる。日本よりももっと多様性がある。家族という単位に多様性があるという理解が地域社会にある。例えば、子供を育てている祖父母、血縁がない親が子供を育てている、親が病気で死ぬ前に別の人に法的な親権を持ってもらいたいと思っている場合などがある。

裁判所は、子供の利益のため、あるいは、子供への害を防ぐために必要であれば、出生証明書に第三の親を加えることができるという考えに基づき、子供重視のアプローチを採用してきた。その枠組みを採用して、出生前の証明書に3人の両親の名前を記載できるという考えを認めた。カリフォルニア州では、代理出産に関する法律を制定する際、代理出産契約に書かれた両親を法律上の両親として認めることを法律に明記した。その契約書には3人の両親の名前があり、それによって出生証明書に3人の両親の名前が記載される道筋ができた。

Q. 仮に、親が別れることになった場合、子供の親権などはどのようにになると予想しますか？ 遺伝的親の権利が強くなりそうでしょうか？

離別についてはあまり話し合っていない。親権は共同になっていて、遺伝的な関係は親権には関係がない。

Q. 子供の性格や能力に関して、遺伝と環境の影響をどのように観察していますか？

自分の考えでは特に顕著な点が2つある。まず、Piper は非常に背が高く、これは彼女の遺伝上の父を反映している。Parker の身長は普通で、これも遺伝上の父を反映している。2つ目は、卵子ドナーが子供たちのそばにいないにもかかわらず、2人とも



卵子ドナーに似た表情や物腰をしていることだ。例えば、2人は時々足の甲で家の中を歩き回るが、これは遺伝上の母親も同じことをする。

Q. 生物学的関係 (biological relationship) についてどのような考えを持っていますか？

例えば、子供たちの代理母を同じ人にしたいと考えますか？

ジェレミーは子供たちが同じ母親を持つことで一体感を得ることを望んだが、自分はその考えにあまり執着しなかった。個人的に、子供が複数の人種の家族の中で育つことは良いことだと考えている。例えば、自分と肌の色が違う兄弟を持つことは、社会的に大きなメリットがあると思う。

最初の代理母はユダヤ系で、2人目の代理母はアフリカ系アメリカ人でラテン系の夫を持つ。この多様性が気に入った。医学の仕事でも、毎日多様な人々と接している。

Q. 3人以上の親の遺伝子を混ぜることができるとしたら、使いたいですか？

そのアイデアに興味がある。確かに費用はかかるし、生物学を書き換える可能性もある。自分たちが家族を持ったとき、他人をリスクにさらすことを心配した。だから、受精卵が安全に着床するように遺伝子検査を行った。もしそのような技術が完全に安全だとわかっていたら、興味を持つかもしれない。

Q. 他に、ポリアモリーの関係で、代理出産などで親になった人を知っていますか？ 交流はありますか？

現在、そのような家族のためのネットワークはない。何人かが助言を求めて連絡

してきたことがある。サンディエゴで同じように子供を育てている夫婦を知っている。

Q. その他

子育てに関する情報

私たちは、さまざまな方法で子育てに関する情報を入手した。これは他の新米パパママと同じである。

- 家族、ベビーブック
- 友人（先に子供を持ったストレート・カップル）や他の医療関係者などに話を聞いた。
- 小児科医に質問した
- 子供の成長に合わせて学び、調整した。
- ジェレミーは動物園の飼育員で、絶滅危惧種の鳥類を飼育した経験があるため、新生児期の Piper の食事やおしっこの様子などをグラフにした。

例えば、自分がスーパーマーケットで子供を抱いていると、「男性が自分の子供の面倒を見ているなんてすごい」と賞賛されることがよくある。

「母親」がいないことに対する子供たちの認識

子供たちは考えすぎない。母親について尋ねられると、Piper は「ママ・ミーガン（卵子ドナー）がいるけど、一緒に住んでいないの」などと答える。ハロウィーンするとき、家族で trick-or-treating（※ハロウィーンのイベントで子供たちがお菓子をもらうために使っている言葉）に出かけ、ある女性が Piper に、自分たちの衣装は母親が作ったのかと尋ねた。パイパーは「お母さんはいるけど、一緒に住んでいないの」と答えた。

子供たちはそれぞれの父親のことを、パパ（イアン）、ダディ（ジェレミー）、ダダ（アラン）と少しずつ違う名前で見ている。Piperが3歳か4歳のとき、廊下でジェレミーとばったり会ったとき、突然、ファーストネームで呼んだ。家の中に親が何人もいることを考えれば、それも無理はない。

イアンの本出版に対する一般的な反応

- 多くのニュースに取り上げられ、世界中に評判が届いた。イギリスはある意味、アメリカよりも関心を持っていた。テレビやラジオ番組などにも出演した。
- 本に関するかなりの数のウェブ出版物
- あまり売れなかった
- いくつかの会議で講演した（法律会議など）
- ほとんどのコメントは好意的だったが、もちろん未熟なコメントもあった
- 地元のゲイの友人たちとオンライン・グループに参加しているが、グループ内では否定的な反応が多かった。1) 子供のことはどう考えている？ 害を及ぼすのではないか？ 2) ゲイ・コミュニティへの悪影響への懸念（「反感を買い、我々の権利に影響する」など）。
- 通常、インターネット上での批判は建設的なものではないが、このような人たちは、感情的な反応をしているのだと考え、敬意を持って対応した。議論が終わるころには、最も強く批判していた人たちの中には考えを改めた人もいた。

(2024年3月)

Dr. Ian Jenkins

サンディエゴ在住の内科医であり、カリフォルニア大学サンディエゴ校の教授でもある。

ゲイで2人のパートナーとポリアモリーの関係を築いている。3人は一緒に暮らしており、代理母出産で6歳と4歳の子供を育てている。

著書

Ian Jenkins (2021) *Three Dads and a Baby: Adventures in Modern Parenting* Paperback. Cleis Press.

